

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

ふるさとの宝と税金

中津市立豊陽中学校

三年 松本 真緒

今年（令和四年五月）、中津市本耶馬溪町の山国川にかかる「耶馬溪橋」が国の重要文化財に指定されることが決まりました。

耶馬溪橋とは青の洞門の少し下流にある橋で大正九年（一九二三年）に竣工しました。日本で唯一の八連石造アーチ橋で、日本最長の石造アーチ橋でもあります。オランダ橋という愛称で呼ばれていますが、これは大分県や熊本県の石橋とは異なり、長崎県に多い水平な石積みを採用しているからだそうです。大分県の有形文化財にも指定されており、日本百名橋の一つにも数えられています。

建設目的は観光用でしたが、主要道路の確保の意味合いもあったそうです。

私は、重要文化財に指定される前から、耶馬溪橋の横にある小さなパン屋さんに行くことがあり、たまたま、耶馬溪橋の説明案内板を写真に撮っていたので、改めて読み返してみました。

そこには、当時のお金で四万円が投じられているとのことでした。今のお金の価値に換算すると約一億六千万円にもなります（大正時代の一日は現在の四千円相当として換算）。そのような高額の仕事費なので、当然、税金で作られたと思っていたのですが、当時は近隣の住民二十一人が共有林を売って工事費用に充てたそうです。

現代でも、私財を投じて公共物を作ったりすることはありますが、当然ながら、すべてをこのように私財に頼ることはできません。

特に最近多くなっている災害の復旧には多額の工事費用が必要となり、そこには多くの税金が使われていると思います。

大分県は観光が中心でもあるため、安全な道路や公共物を整備しておかないと、観光客も訪れる機会が減少し、大分県の経済等にも大きな影響が出ることになります。

中津市出身の福沢諭吉先生も「学問のすすめ」の中で、税金について次のような趣旨のことを書かれています。

「政府は法令を設けて悪人を取り締め、善人を保護する（人々の生活や安全を守る）。しかし、それを行うには多くの費用が必要になるが、政府自体にはそのお金がないので、税金としてみんなに負担してもらおう。これは政府と国民双方が一致した約束である。」

私も税金を払う立場となったら、国民の約束として、福沢諭吉先生のように、気持ちよく税金を払って、人々の生活や安全、ふるさとの宝を守ることに貢献したいと思います。